

ゆずの風新聞

令和2年
秋冬号

発行：馬路村
農業協同組合

農協HP
はこちら



季節どね！



はじまた はじまた



しぼりたて 販売中。



いよいよ待ちに待った村のゴールデンシーズン。一帯が黄金色に染まり、ゆず薫る風が吹く季節となりました。畑の大小はありますが、馬路村の半分ほどの世帯がゆず農家であり、またゆず農家でない村民もこの時期は収穫作業の手伝いに入るのが当たり前。まさに「ゆずの村」と化す馬路村です。今年は夏の長雨など天候不順が続き不安もありましたが、おかげさんで豊作の年となり、おんちゃんたちはニコニコ元気に収穫作業に汗をかけられています。一年の中で最も喜ばしいゆずの季節の風が、街に届きますように。



4つの季節に活躍するイロイロ。

皮手袋



ゆず収穫には軍手など普通の手袋はご法度である。無数の鋭いトゲにも気にせず作業ができる皮製の手袋を何個も持っておくのが、村では常識。農協ストアでも常備され、何があっても皮手袋を切らさないようにストア担当者は注意をはしらせている。使い込めば込むほど、なんとも味が出て新品よりも黒ずんだ手袋を使うおんちゃんの方がカッコ良く見える。村では手袋といえば、だいたい皮手袋のことを指す。



普通の帽子をかぶり収穫をする人も多いが、ゆずの木の鋭いトゲから完全に身を守るためには、ヘルメットが必要。密集した枝をかき分け、頭ごと木の中突っ込んでいくおんちゃんの気位を全力で支えてくれるアイテム。

ヘルメット



おんちゃん

普段は大人しいようなおんちゃんでもこの季節には鋭い目つきとなり、一日中ゆずと向き合う日々が続く。収穫中は会話こそ少ないが、背中で語る姿はさながら畑の必殺仕事人。



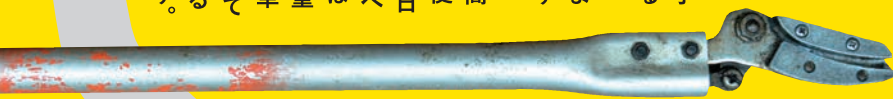
高枝バサミ



ゆずは一玉一玉、このハサミで収穫されていく。収穫の際も、ゆずがトゲで傷つかぬよう、高枝バサミで器用に枝をすり抜ける様子、まるで釣竿を華麗に操る土佐の一本釣り漁師のよう。それぞれが、自分の具合のよいハサミを持っており、ゆず畑の相棒的な存在である。長さも様々あり、畑の木の高さに合わせて、使い分ける。一日中、上から下への繰り返しはなかなか重労働で、簡単そうに見えて素人は慣れるまで時間を要す。

手しぼり器

ゆずを搾る器具。自家用や親戚にゆず果汁を贈るために、夕方から夜にかけて家の庭先などで搾る光景はこの季節の風物詩でもある。たまに、この手しぼり器を買いたいという観光のお客さんもあるが村の大家や自分たちが手作りしたものをご家庭で大事に保管しており、設計図などもない。今では手に入れることが難しい、村の常備品。





村特有の
バイリンガル用語が
たくさんあります。
あなたは
わかるかな？

Q こづくり部屋

例)「〇〇さんのこづくり部屋はあそこよ。」
馬路村には昔から「こづくり部屋」があります。
「こづくり部屋」とはなんでしょう？

※答えは下段に



山の幸

川の恵み



今季のアユ漁が終わり、しばらく川遊びはお休みになります。漁の最終日はおんちゃんたちが集まって恵みに感謝しながら一杯やるのが毎年の恒例。最後のアユを贅沢に使った宴は村の風物詩です。アユの隣には採れたてのマツタケが置かれて季節の移り変わりを感じます。

今が旬の山の幸、マツタケ。飲み会で出てきたり、おすそ分けでもらったり、村に住んでいるとたまに味わえるマツタケですが、どこで採れるかはナイショ。村のおんちゃんたちはそれぞれ山に秘密の場所を持つてるそうですが、場所のことは絶対に秘密なのです。

Aコープ 大売り出し 道具



ゆずの収穫を目前にひかえ、農協の購買では収穫の道具を売り出していました。おんちゃんやおばちゃんが集まってきて、早速おしゃべりがはじまります。「おー、今年はどうで。」
「まあまあよ。何を買いに来たがぜ。」ハサミがねえ…。今年も孫も来るつきに。「そりやあいよいよか。一式揃えちよいちやらな。」そうよ、ヤッケから何から買いよらあよ(笑) おんしゃあ何で?」『ボテ(肩掛けの力ゴ)がいよいよイカンな。底に穴が空いちゅうもんやき、入れた側から落としていきよらあ。』
商品を比べてみたり、持ってみたり、メモに書かれていないものを吟味したり。今の持ち物に愛着はあるけれど、新しいものはやっぱり嬉しいようで、これから長く使う大切な道具を真剣に選んでいました。



相名のお米が 一番美味しいがよ

お米が美味しいと評判の相名地区。平地の少ない馬路村では珍しく、水田が広がる米どころです。山の冷たい水で育ったお米は旨みがギュッと詰まっています。しかし、お米を作っている農家さんのほとんどが自家消費。外部へ出回らない相名のお米は中々食べれない幻のお米なのです。

おたのしみコーナー



A) 「こづくる」「木造る」
「木造る」とは木を加工したり組んだりすること。大工さんの用語。木を加工するための個人部屋の事を「木造り部屋」と言います。イメージはアトリエに近いかも？

馬路温泉



馬路温泉 HP

つるつるのお湯でゆつたり。食事、宿泊もできます。
電話番号
088714412026
予約専用フリーダイヤル
012014412026

森を元気にする会社 エコアス馬路村



<http://www.ecoasu.co.jp/>

編集後記

朝夕はめっきり冷え込むようになりました。秋は駆け足で、あっという間に過ぎてしまいましたが、馬路村では秋の实りを強く感じます。栗に柿、キノコに新米、秋は美味しいものでいっぱい。おすそ分けでもらった栗ご飯はホカホカでした。ゆずの収穫も始まり、ゆず工場はフル稼働です。村は一番忙しい季節を迎えました。

